

ウキは潮の流れや水深、餌盗りの状況に合わせてローテ。ハリスは2号が基準が妥当

私の基本的な仕掛け

- 風が強い時は竿をエリアス5.0mに替える(がまかつ)
- エサ盗りが多い時は、ウキは0号のウキを浮かして釣り、たえずツケエサの有無を確認する。
- エサ盗りがいない時は0αで仕掛けが馴染んだら少しずつ深くさぐっていく。
- ハリスは朝マズメは2号を使用し、陽が高くなるにつれて1.75号に落とし、更に1.5号に落とす事があるが大抵は2号→1.75号→2号と替える事が多い。これは納竿前に大型クロがアタル事が多いためである。
- ウキ止めは目印の役目もするので、全遊動でさぐる時も必ず付けておく。



ウキは釣研の「ゼクト」

竿がま磯
アテンダーⅡ
1.25 5.3m

道糸
サンライン
ブラックストリーム
マークX1.75号

ウキ止め糸(赤)

半円シモリ

ウキ
釣研
ゼクト0号・0α

フカセからまん棒
(イエロー)

極小サルカン

ハリス
サンライン
ブラックストリーム
1.75~2号
(2ヒロ半)

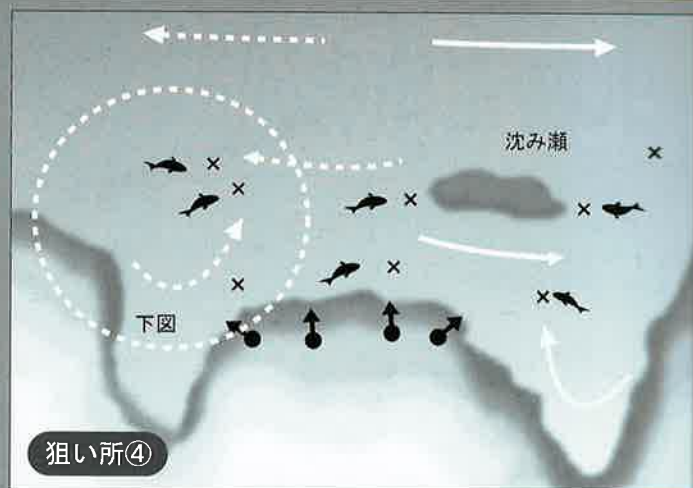


ハリ
がまかつ
競技くわせ5~6号
TK03~5号
テクノグレ5号

リール
ダイワ
トーナメントZ
2500LBD



ハリスは水深(重量)、喰い渋り、クロのサイズに応じて交換



狙い所④

- 潮が流れる方向にワンドがある場合は、ワンドに入った潮が出る潮と、瀬づたいに動いて来た潮がぶつかる所がポイントになる(合流点)。
- 正面に沈みがある場合は、潮の払い出しやサラシを利用して、沈み瀬の上や、沈み瀬の手前で仕掛けを止めてアタリを待ちます。



狙い所④のシケ日

- 潮目とサラシがぶつかるポイント(時化の時によく出来る)。

最後に

ウキは自然な感じを演出したため、0号からB位のオモリ負荷がよいと思います。もちろんハリスは長目にしてハリスにはガン玉を打たないのが理想ですが、潮の流れが強い時や強引な止め釣りなどをする際は、状況に応じながら臨機応変に小粒ガン玉を噛み付けるようにしています。

でしようか? 前述したように抱卵して神経質になっているクロが相手だけに、釣り人も心配をする必要があると思います。例えば、瀬の上でガヤガヤせず静かに釣りをすると、磯際にむやみな立たずに一歩下がって釣りをする等です。この期間のクロは根気強く粘って粘りきった人が釣果に恵まれているような気がします。

大好きな釣りをしている時は、最後の最後まで粘って自分の感を信じ、潮と運を味方につけてデカクロをゲットしましょう。さあ、ラストスパートですよ!

最近のクロは、前触れもなしに突然、喰ってくる事が多いように思います。もちろん潮加減もありますが、竿を出して「今は喰わないなあ」と思っていると、ウキがゆっくり入ってズドン!とか、ウキを見てないで、ほったらかしにしているとなんとか、釣りの人の意表をついた喰い方を見せます。

